

平成17年度包括外部監査の報告書（要約）

平成18年3月27日

倉敷市包括外部監査人 公認会計士 佐藤 芳郎

1. 選定した特定の事件

「市債」の財務事務について

（発行事務・公債費負担・該当事業の効果をめぐって）

2. 事件として選定した理由

倉敷市の未償還市債残高は平成15年度末で15百億円（普通会計ベース）を超え、市民一人あたりでは34万円弱の残高を残している。一方、平成15年度の税収は総計で約7百億円弱であり、市債残高の約1/2程度しかない。さらに、下水道事業にかかる市債を加算した市債残高は35百億円を超過し、年次歳入総額の2倍強となる。このような状況下で、既発行の市債が将来の市の財政に与える影響を検証すること、及び過去に起債して実施した個別事業の有効性を検討し、後生の市民に負担を残すことの正当性等を個別に吟味し、今後の起債のあり方に資することが極めて有用であると思料した。

3. 市債及び市財政の現状と将来

現在の市債残高を全て返済するには、今後一切市債を発行しないとしても約30年弱の年月がかかり、年々の公債費は平成15年度普通会計で169億円に上っている。倉敷市の財政状況は普通会計で見る限り、中核市の平均と比較して若干劣るものの、ほぼ平均的であると言える。しかしながら、大きな市債残高に対して、財政調整基金残高は60億円強しかなく、平成15年度の年間税収が691億円の倉敷市にとって今後の公債費負担は重く、結果的に新規市債の発行を続けざるを得ない状況にある。仮に新規市債の発行額を年度公債費額までとして、プライマリーバランスをゼロに保つとしても、監査人の試算では10年後に市債残高は27%程度増加し、30年後には約倍増してしまう。残高を増加させないためには、今後の市債発行額を年次公債費の85～90%程度に抑える必要があると試算され、積極的に市債残高を減少させるためには70%未満に抑えることが肝要と考えられる。

倉敷市財政の健全化のために、国の「三位一体改革」の本質を十分に検討して、既に開始している「事務事業評価」の実効を高め、「行財政改革」の成果を飛躍的に向上させて、「ゼロベース予算」を徹底し、不要不急の歳出を大きく削減して、後年代への負担の軽減を図ることが急務であるとの結論を得た。

4. 個別事業の監査結果

個別事業に対する監査結果は別紙の通りまとめられるが、監査人として結果論ではあるが「当該事業が効果的であった」と評価できるものは限られている。今後の起債及び事業計画時に考慮すべき事項として、次の点を挙げたい。

- ①起債時点から数年たつと当初のもくろみ通りには進まない事業が多いが、適時に対応策がとられず、だらだら継続しているものが多い。適時な抜本的対策が不可欠である。
- ②計画時にニーズの把握が甘く、また的確な収支（採算）予測を検討していない。さらに実施結果を計画と照らして検討していない。重要案件については内部評価だけでなく、第三者による「事務事業評価」等を活用すべきである。
- ③指定管理者制度を、もっと原則に忠実に、より有効活用すべきである。
- ④縦割り行政の結果、同一利用目的と考えられる施設等が重複設置されているようにみえる。
- ⑤工事請負契約の高落札率傾向が顕著で、また高単価工事も多く、資金効率に疑問が残る。
- ⑥一部の施設において財産管理面が弱く、管理の不徹底がある。

個別事業の評価一覧表 (評価基準 : ○ 適切, △ 疑問あり, × 不適切)

	監査要点	瀬戸大橋架橋記念館	水島海員会館	東部最終処分場	水島清掃工場	ライフパーク倉敷	倉敷クリエイティブパーク	倉敷市保健所・くらしき健康福祉プラザ	かわせみネット
起債年度		S61・62	H元・2	H元・2・13・14	H4・5・6	H2・3・4	H8・9・10	H10・11・12	H15
起債額	百万円	1,554	453	1,357	13,110	3,333	1,356	7,687	1,811
起債時点	政策の適合性・政策の合理性・適時性・緊急性	△	○	○	○	○	○	○	○
	公益性・公共性	△	△	○	○	○	△	○	○
	起債の合理性	△	△	○	○	○	○	△	△
運営	合规性	○	×	△	△	○	△	○	○
	事務の適正性	△	△	△	△	△	×	△	○
結果	事業の有効性	×	△	○	○	○	×	△	×
	事業の効率性	×	×	△	○	○	×	△	×
	事業の将来性	×	×	○	△	○	○	△	△
総合評価	上記の結果を総合的に勘案	×	×	△	△	○	×	△	△
コメント		今では無用の長物	海員・市民の利用が少ない・公益事業か？	公益性は高い・運営委託の検討余地	設備寿命後の対策が不確定・委託先選定手続に改善余地	教育に有効・事務管理に検討余地	今後の倉敷ブランド発信に期待	割高設備で活用度・効率性に疑問	将来活用に大きな期待